

大正期作家の読書遍歴に関する書誌的研究

(その6) ——荷風の読書遍歴書誌 6——

志 保 田 務*
赤 瀬 雅 子**

太平洋戦争を含むいわゆる「大東亜戦争」の年代である。空襲に追い回され、好物のコービなど全く手に入らないようになっていた。荷風の作家としての実力の全盛期はつとに過ぎており、しかも作風が治安当局からにらまれていた関係で発表の場もなく、ひたすら読書し、日記を標める日々を過ごしていた。この時代、彼が主に読書対象としたのは外国人による日本文学史に関する著作および日本文学評論であった。

西洋の文芸との交流を遮断されたにひとしい時局下に、荷風は「外から見る日本」を読み、文芸評論の方法を摂取した。こうした研究態度は、後に、戦後の文壇の土台となった。

書誌に関する著作も幾つか読破している。この「書誌」の重視は、日本文学界では戦後初めて感得されることであったが、荷風はその基礎の形を提供したものと言えよう。書誌的研究のおおもとを、荷風は鷗外に学んでいる。ただし鷗外におけるそれは「考証の徹底」である。荷風は確立された近代書誌学を踏まえ「書誌」を追及したわけで、師よりも、研究方法的次元が高い。

この、書誌に密着することによって、他者の業績を冷静に評価することができ、また自作を謙虚に検討することとなった。荷風はこうして自己を知る、そのことに徹底することによって大成した。自己を透視したそのことにおいて、荷風は評価を受け高い位置を占める作家となっている。しかしこうした資質の完成は、西洋の日本文学評論・書誌学への深い造詣によってなされたと考えられる。

上のように振り返るとき、この時代はむしろ荷風が真髓を築き、結実した時代と見られる。逆説的ではあるが、彼の最も充実した時期の一つであったと言うことが出来えよう。

凡 例 (詳細は本誌 Vol.12 No.3 所載)

I 拠点

『荷風全集』第1巻(1962年)～第28巻(1965年)、補巻・第29巻(1974年)岩波書店。

II 記載事項

1. 読書関係事項

- 1 年月日：原則としてその対象作品名をなっている荷風の著作の初出の年月日。ただし脱稿の日付がふされそれが発表の日付よりも2年以上先立つものである場合は、脱稿の年月日を記載した。なお脱稿と発表の年月日に相当の間隔がある場合は、それぞれ注で脱稿または発表の日付を補った。

- 2 読書作品：荷風による記載の形に従って著者：作品名の順に示す。

2. 典拠関係事項

- 1 巻・頁：当該読書作品を所載する上記『荷風全集』の巻次，頁。
- 2 読書作品を所載する荷風の著作のタイトル。岩波による編集タイトルの場合を含む。

- 3 注：注は稿末にまとめた。荷風の文中からの抽出文には「 ” 」(引用符)で囲んだ。

* 本学社会学部教授

** 本学経済学部教授

荷風の読書遍歴書誌(6)

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.13. 1.27	中河与一「天の夕顔」 ¹⁾	22:247	昭和13年歳次戊寅日記巻二十二
S.13. 1.27	中河与一「天の夕顔」	25:318	書簡集
S.13. 1.27	夏目漱石「坊ちゃん」	25:318	〃
S.13. 1.27	二葉亭四迷「浮雲」	25:318	〃
S.13. 1.28	森鷗外「岩波版鷗外先生日誌」	22:248	昭和13年歳次戊寅日記巻二十二
S.13. 1. 1	森鷗外「皇室博物館蔵書解題」(全集 収載)	22:241	〃
S.13. 1.27	ギョーテ, ウイルヘルム「若きウエル テルの悩み」	25:318	書簡集
S.13. 1.27	デコブラ「吉原」	22:248	昭和13年歳次戊寅日記巻二十二
S.13. 1.27	ミュッセ, アルフレッド「世紀児の告 白」 ²⁾	25:318	書簡集
S.13. 1.29	メールン, ヴァン デル「千九百十四 年の入寇」	22:246	昭和13年歳次戊寅日記巻二十二
S.13. 1.13	Meersch, Maxence Van der「La Maison dans la Dune (Roman)」, 「Car ils ne savent pas ce qu'ils font (Roman)」, 「Le Péché du Monde (Roman)」, 「Maria, fille de Flandre (Roman)」, 「Invasion 14 (Roman)」,	22:245	〃
S.13. 2.15	メールシュ, ヴァン デル「砂丘の家」	22:253	断腸亭日記巻第二十二続
S.13. 4.24	雑誌「月刊楽譜」	22:267	〃
S.13. 4.19	ミュルジュー「貧書生」 ³⁾	22:266	〃
S.13. 5.29	「ロッチの結婚」 ⁴⁾	22:277	〃
S.13. 6.30	「新古今集, 雑ノ部」	22:285	〃
S.13. 6. 7	俳諧雑誌「かむろ」	22:279	〃
S.13. 6. 8	ロチ, ピエール「波斯紀行 (Vers Ispahan)」	22:280	〃
S.13. 7.15	森銃三「大雅堂遺聞」「野呂介石伝の 研究」「碧斎画話」	22:289	〃
S.13. 7. 8	ヴェルレーンの散文	22:286	〃
S.13. 7.13	ヴェルレーン「二十七名家伝」 ⁵⁾	22:288	〃
S.13. 8.29	津坂東陽「夜航余話」	22:304	断腸亭日記巻第二十二続々
S.13. 8.17	ドーデ, アルフォンス「倭少年」 ⁶⁾	22:302	〃
S.13. 8. 1	Dumesnil, D.「現代仏蘭西音楽史」	22:297	〃
S.13. 9. 6	石川達三「生きた兵隊」 ⁷⁾	22:307	〃
S.13. 9.29	ゴロウニン「遭厄日本紀事」	22:315	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.13. 9.17	フランシス・ジャムの散文著述	22 : 309	断腸亭日記卷二十二続々
S.13. 9. 4	ハイネ, ハイブリッヒ「アンテルメッ ツオ」 ⁹⁾	22 : 306	〃
S.13. 9.23	ロチ, ピエール「絵入美本おひたちの 記 (Le Roman d'un Enfant)」	22 : 314	〃
S.13.10.20	同人雑誌「文体」	22 : 319	〃
S.13.10.16	「Biographie des Jeunes Demoi- selles ou vies des femmes célè- bres depuis les Herbreux jusqu'à nos jours」 par M ^{me} Dufrenoy (1820) Paris	22 : 319	〃
S.13.11.18	大曲駒村「川柳岡場所考」	22 : 328	〃
S.13.11.22	マダムダシェーの伝 ⁹⁾		
S.13.11.28	Buet, Patrice 「Les Jeunes Poètes de France」	22 : 330	〃
S.13.11.28	Gossez, A -M. 「Les Poètes du XX ^e Siècle」	22 : 330	〃
S.13.12.25	菊田久利「時の玩具」	22 : 340	断腸亭日記第二十二卷続々
S.13.12.29	「大日本人名辞書」	22 : 341	〃
S.13.12.29	十六羅漢の彫刻のある丹羽長恒の墓の 一小冊	22 : 341	〃
S.13.12.14	イバネス, ブラスコ「世界漫遊記」	22 : 334	〃
S.13.12.26	ボノオ, ジョルジュ「日本文学史」 ¹¹⁾¹²⁾	22 : 340	〃
S.13.12. 9	ミシュレ「羅馬共和国史」	22 : 332	〃
S.13.12.25	Bost, Pierre 「Le Cirque et le Music-Hall」 (1931)	22 : 340	〃
S.13.12.15	Ibañes, V. Blasco 「Le voyage d'un Romancier autour du monde」 (1928)	22 : 334	〃
S.14. 1.29	岡野他家夫「明治文学研究書誌」 ¹³⁾	22 : 356	断腸亭日記卷二十三
S.14. 1.28	雑誌「更生」	22 : 356	〃
S.14. 1.29	浅草オペラ雑誌「更生」 ¹⁴⁾	22 : 356	〃
S.14. 2. 1	岡野他家夫「明治文学研究誌」	25 : 326	書簡集
S.14. 2.17	香取文江「自叙伝」	22 : 362	断腸亭日記卷二十三
S.14. 3. 5	石角春之助「浅草女裏譚」	22 : 364	〃
S.13. 3.13	二世楚満人「軒並娘八丈」	22 : 366	〃
S.14. 3.30	ミシュレー「仏蘭西革命史抄録」	22 : 369	〃
S.14. 4.25	石角春之助「乞食裏物語」「銀座女譚」 「浅草経済学」	22 : 373	〃
S.14. 4.25	新堀哲岳「明暗の浅草と不良少年」 ¹⁵⁾	22 : 373	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S. 14. 4. 29	ルッソオ「寂しき散歩の夢」 ¹⁶⁾	22 : 374	断腸亭日記巻二十三
S. 14. 4. 8	ロチ, ピエール「墓詣 (Fantôme d'Orient)」	22 : 371	〃
S. 14. 4. 23	Albalat, Antoine 「Comment il ne faut pas écrire」 (1921)	22 : 373	〃
S. 14. 5. 19	成島柳北 ¹⁷⁾	22 : 378	〃
S. 14. 5. 4	Humbert, Aime 「Le Japon illustré」 ¹⁸⁾	22 : 375	〃
S. 14. 5. 22	Joliet, L. 「Précis illustré de la Littérature française」 (1919)	22 : 378	〃
S. 14. 6. 4	幸田露伴「竹頭」	22 : 379	〃
S. 14. 6. 29	「星渚先生詩稿」(2冊写本)	25 : 331	書簡集
S. 14. 6. 26	プッシュキン著, メリメエ訳「骨牌の謎」	22 : 388	断腸亭日記巻二十三続
S. 14. 6. 28	ミュッセの短篇小説集 ¹⁹⁾	22 : 388	〃
S. 14. 6. 16	Duranty 「La cause du Beau Guillaume」	22 : 381	断腸亭日記巻二十三
S. 14. 8. 14	仮名垣魯文「手記耄録」	22 : 399	断腸亭日記巻二十三続
S. 14. 8. 6	韓非「韓非子」	22 : 398	〃
S. 14. 9. 2	「商子」	22 : 407	〃
S. 14. 9. 3	「鳥居坂警察管内麻布地誌」 ²⁰⁾	22 : 406	〃
S. 14. 10. 25	レニエー 「Divertissement Provinciale」 <small>(マツ)21)</small>	22 : 420	〃
S. 14. 11. 不	大沼枕山「枕山詩鈔」	15 : 453	下谷叢話第四十三
S. 14. 11. 不	信夫恕軒「枕山の伝」	15 : 452	〃
S. 14. 11. 不	枕山の女嘉禰編「枕山先生遺稿」 ²²⁾	15 : 452	〃
S. 14. 11. 不	西川善次郎「枕山先生詩話」	15 : 451	〃
S. 14. 11. 11	根岸肥州「耳袋」	22 : 423	断腸亭日記巻二十三続
S. 14. 11. 不	村上函峯「函峯文鈔」	15 : 449	下谷叢話第四十二
S. 14. 11. 不	靱山衣州「明治詩話」	15 : 450	〃
S. 14. 12. 29	「一九一四年戦争と一九三九年戦争に於けるドイツの機運」 ²³⁾	22 : 431	断腸亭日記巻二十三続
S. 14. 12. 29	「仏蘭西今回の戦前に於ける財力の復興」 ²⁴⁾	22 : 431	〃
S. 14. 12. 30	フランス, アナトール「論集文学生活」	22 : 432	〃
S. 14. 12. 30	ロチ, ピエール「お梅が三度目の春」 ²⁵⁾	22 : 431	〃
S. 14. 12. 30	Barthou, Louis 「氷島漁夫」 ²⁶⁾		
S. 14. 12. 17	Jaloux, Edmond 「Au pays du roman」 (Paris, 1931)	22 : 429	〃
S. 15. 1. 27	「文武高名録」二巻 ²⁷⁾	23 : 12	断腸亭日記第二十四巻

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.15. 2. 4	ハーン, ラフカディオ著, 平井訳「怪談」	23 : 14	断腸亭日記第二十四巻
S.15. 3. 26	丹羽賢「花南小稿」	23 : 25	〃
S.15. 3.24	「チェコ現代文学史」 ²⁸⁾	23 : 25	〃
S.15. 3.24	フルツシヤ「余のお菊さん」「風前の桜」「恋の庭」 ²⁹⁾	23 : 25	〃
S.15. 3.24	Jelinek, H. 「Histoire de la littérature Techèque」	23 : 25	〃
S.15. 3. 24	Holoucha, Joe 「Ma Madame Chrysanthème」 (1910), 「Sakoura dans l'ouragan」 「Le Jardin de l'amour」 (1930), 「Le Baiser de la mort」 「Les Vendeuses de sourires」 (1930)	23 : 25	〃
S.15. 4. 7	「狂詩戦」	25 : 335	書簡集
S.15. 4.25	ハーン, ラフカディオ著, 平井訳「骨董」	23 : 31	断腸亭日記第二十四巻
S.15. 5.15	成島柳北「柳北新誌」	25 : 336	書簡集
S.15. 5.29	Dumesnil, René 「Portraits de Musiciens français」 (1938)	23 : 37	断腸亭日記第二十四巻
S.15. 6.28	斎藤茂吉「不断経」	23 : 45	〃
S.15. 7.29	岡不崩「万葉集草木考」	23 : 54	〃
S.15. 7.29	雑誌「花月」 ³¹⁾	23 : 53	〃
S.15. 7.22	内藤耻叟編「日本文庫」	23 : 52	〃
S.15. 8.27	「唐詩選」	23 : 62	〃
S.15. 8. 2	「豆腐百珍」	23 : 54	〃
S.15. 8.27	南川金溪「閑散余録」 ³²⁾	23 : 62	〃
S.15. 9. 8	江村北海「授業編唐音の條」	23 : 66	〃
S.15. 9.10	寒月庵雀子「烏川夢の曙」 ³³⁾	23 : 67	〃
S.15. 9.10	「漁村文話」	23 : 66	〃
S.15. 9. 5	内藤耻叟編「日本文庫」	23 : 65	〃
S.15. 9.14	中村蘭林「講習余事」	23 : 70	〃
S.15. 9.21	ジャンモレアスの詩集	23 : 72	〃
S.15.10. 3	「旧約聖書」 ³⁴⁾	23 : 76	〃
S.15.10. 4	「西遊記」	23 : 76	〃
S.15.10. 1	内藤耻叟「江戸文学志略」	23 : 75	〃
S.15.10.14	森銑三編, 雑誌「伝記」昭和15年8, 9, 10月号 ³⁵⁾	23 : 80	〃
S.15.10.24	ヴェルレーズの詩篇「ザジェス」	23 : 88	〃
S.15.11. 9	雪芹「紅樓夢」 ^{36) 37)}	23 : 98	断腸亭日記巻二拾四続

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.15.11.14	太宰春台「聖学問答」	23:101	断腸亭日記巻二拾四続
S.15.11.14	中村成昌「知命記」	23:100	〃
S.15.11.1	干河岸桜所「徳川時代の文学」 ³⁸⁾	23:96	〃
S.15.11.14	藤原惺窩「惺窩文集」	23:100	〃
S.15.11.19	ディケンズ, チャールズ「オリバート イスト」 ³⁹⁾	23:103	〃
S.15.12.1	江見水蔭「水さび」	23:110	〃
S.15.12.9	武林無想庵の訳著 ⁴⁰⁾	23:119	〃
S.15.12.12	グルモン「遠き彼方 (D'un Pays lointain)」	23:120	〃
S.15.12.11	ハーン, ラフカディオ「骨董」	25:339	書簡集
S.15.12.4	Taine, H「Etienne Mayran」 ⁴¹⁾	23:114	断腸亭日記巻二拾四続
S.15.12.31	Régnier「Sujets et Paysages」	23:125	〃
S.15.不.不	「種くばり」	26:491	序跋其他: 種くばり識語
S.16.1.15	井坂梅雪編「尾上菊五郎自伝」	23:133	断腸亭日記第貳拾伍巻
S.16.1.15	「演芸画報」	23:133	〃
S.16.1.15	木村錦花「明治座物語」	23:133	〃
S.16.1.15	田嶋淳「左団次自伝」	23:133	〃
S.16.1.15	利倉幸一「市川左団次覚書」	23:133	〃
S.16.1.5	ウエルハーレンの詩集	23:130	〃
S.16.1.16	ドーデ「ロベールエルモン(寂しき人 の日記)」 ⁴²⁾	23:133	〃
S.16.1.18	ドーデ「流竄の王」	23:133	〃
S.16.1.5	ノアイユ夫人の詩集	23:130	〃
S.16.1.6	ユイスマン「De Tout」	23:130	〃
S.16.2.25	松居桃太郎「市川左団次伝」	23:142	〃
S.16.2.12	「モーパサン選集」	23:139	〃
S.16.3.1	大沼枕山「東京楽事」	23:143	〃
S.16.3.29	「新燕石十種」	23:153	〃
S.16.3.12	菅竹浦「狂歌史」	25:343	書簡集
S.16.3.25	Catta, Tony「Un Romancier de vraie France René Bazin, Cal- mann-Lévy」(1936)	23:152	断腸亭日記第貳拾伍巻
S.16.3.28	Maricourt, André de「Ce bon Abbé Prévost, l'auteur de Manon」 ⁴³⁾	23:152	〃
S.16.4.1	五弓久文編「事実文編」	23:154	〃
S.16.4.15	佐藤一斎の文集	23:159	〃
S.16.4.29	西沢一鳳「伝奇作書」	23:163	〃
S.16.4.23	藤原為定撰「新千載和歌集」	23:162	〃
S.16.4.14	「仏蘭西近代詩撰」	23:159	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.16. 4. 8	パーレー「万国史」	23: 157~158	断腸亭日記第貳拾伍卷
S.16. 5.24	八文舎自笑編「役者論語」	23: 172	〃
S.16. 6.15	喜多村筠庭「筠庭雜録」	23: 176	〃
S.16. 6.25	武林無想庵のゾラの訳著	23: 180	〃
S.16. 6.25	日高氏其新著	23: 180	〃
S.16. 7.19	石塚豊芥子「商売盡し狂歌合」	23: 189	〃
S.16. 7. 6	ストーン「アンクルトムの家」	23: 187	〃
S.16. 7.19	浅草寺雑誌「聖潮」第2巻10号 ⁴⁴⁾	23: 189	〃
S.16. 7.28	為永春水「いろは文庫」	23: 192	〃
S.16. 7.29	中江兆民「一年有半」 ⁴⁵⁾	23: 193	〃
S.16. 7.19	四方梅彦「江戸鹿子紫草子」「水滸伝 正本製」「おなつ清十郎正本仕立」	23: 190	〃
S.16. 7.19	柳亭種彦「春画本水揚帳」	23: 190	〃
S.16. 7.18	Bloy, Léon「La Porte des Humb- les 1915-1917」 ⁴⁶⁾	23: 189	〃
S.16. 8.不	泉鏡花	15: 571	為永春水
S.16. 8.不	雑誌「浮世絵」大正14年10月号	15: 577	〃
S.16. 8.不	梅暮里谷峨(二代目)	15: 572	〃
S.16. 8.不	尾崎紅葉	15: 571	〃
S.16. 8.不	曲亭馬琴「著作堂雜記」	15: 576	〃
S.18. 8.不	曲亭馬琴 ⁴⁷⁾	15: 555	〃
S.16. 8.不	清元延津賀「春色廓の花」	15: 573	〃
S.16. 8.不	黒川惟章編「俳諧人名録」	15: 575	〃
S.16. 8.不	佐村八郎「国書解題」	15: 577	〃
S.16. 8.不	式亭三馬「浮世床」	15: 556	〃
S.16. 8.不	信夫恕軒「遺稿, 下巻」	15: 566	〃
S.16. 8.不	蜀山人「俗耳鼓吹」	15: 572	〃
S.16. 8.不	関根只誠「名人忌辰録」	15: 577	〃
S.16. 8.不	「大日本人名辞書」	15: 576	〃
S.16. 8.不	瀧亭鯉文「忘れのこり」	15: 562	〃
S.16. 8.不	為永春水「清談松の調」「春色春告鳥」 「春色梅ごよみ」「吾婦の春雨」「軒 並娘八丈」「明烏俊正夢」「花暦八 笑人」「出世娘」「春色辰巳園」「教 訓二筋道」「春色恵の花」「春暁八 幡鐘」「春色湊の花」「春色梅見の 船」「処女七種」「花の名所」 ⁴⁸⁾	15: 554~574	〃
S.16. 8.不	津ノ国屋主人藤次郎「津廻国名所」	15: 574	〃
S.16. 8.不	時山弥八「関八州名墓志」	15: 577	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.16. 8.不	西沢一鳳軒「伝奇作書初編上」「皇都 午睡」	15:566	為永春水
S.16. 8.不	松亭金水の人情本	15:570	〃
S.16. 8.不	森鷗外「黄禍論梗概」	15:553	〃
S.16. 8.不	森鷗外「細木香以伝」 ⁴⁹⁾	15:574	〃
S.16. 8.不	依田学会「譚海」	15:557	〃
S.16. 8.不	柳亭種彦 ⁵⁰⁾	15:555	〃
S.16. 8.不	エイメー「日本観察記」 ⁵¹⁾	15:553	〃
S.16. 8.不	ハーン、ラフカディオ「骨董」	15:553	〃
S.16. 8.不	ユヅネル「日米紀行」	15:552~553	〃
S.16. 9.19	藤原明衡編「本朝文粹」	23:209	断腸亭日記巻二十五続
S.16. 9.29	ゾラ「三都会」	23:211	〃
S.16. 9.14	タゴールの詩集	23:208	〃
S.16. 9.21	バルビウツス「ゾラの評伝」	23:209	〃
S.16.10.11	蜀山人「調布日記」	23:214	〃
S.16.10.17	陶淵明の集	23:216	〃
S.16.10.22	陶靖節の集	23:218	〃
S.16.10. 4	Marvel, Ik「Dream Life」	23:212	〃
S.16.11.29	尾崎紅葉「金色夜叉」	23:236	〃
S.16.11.29	徳富蘆花「不如婦」	23:236	〃
S.16.11.29	ミュルジエー「ポエーム」	23:236	〃
S.16.11.29	Maurier, George du「トリルビー (Trilby)」	23:236	〃
S.16.11.29	Maurier, George du「Peter Ibbet- tson」	23:236	〃
S.16.11.20	Mitchell, Donald G.「Reveries of a Bachelor (独り者の夢)」	23:234	〃
S.17. 1. 6	「滑稽和合人」	23:248	断腸亭日記巻二拾六
S.17. 1.13	雑誌「文芸世紀」	23:249	〃
S.17. 2. 6	ユーゴー、ヴィクトル「鐘」	23:254	〃
S.17. 2.22	ユーゴーの詩集「恐怖の年」、文芸論 集、書笈 ⁵²⁾	23:257	〃
S.17. 4.20	木村嘉次 ⁵³⁾	25:349	書簡集
S.17. 4.29	「L'Année Terrible, Librairie du Victor Hugo Illustré, 13 Rue Thérèse」	23:268	断腸亭日記巻二拾六
S.17. 5. 5	木村富子「浅草富士」	23:268	〃
S.17. 6.24	高木文「茶聖利休居士記録」	23:274	〃
S.17. 6.14	宝井其角「其角七部集」	23:272	〃
S.17. 6.30	「キネマ旬報」	23:274	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.17. 6.30	ジイド「贗金づくり」 ⁵⁴⁾	23 : 275	断腸亭日記巻二拾六
S.17. 7.12	高浜虚子「脚本北条時宗」	23 : 283	〃
S.17. 7.13	中河与一「香妃」	23 : 283	〃
S.17. 7.19	森鷗外「鷗外全集評論の部」	23 : 281	〃
S.17. 7. 4	森鷗外「鷗外先生書簡集」 ⁵⁵⁾	23 : 277	〃
S.17. 8.11	随園「新斎譜」	23 : 284	〃
S.17. 9.18	浜田義一郎	25 : 352	書簡集
S.17. 9.27	浜舘貞吉「寒葉斎建部綾足の伝」	23 : 291	断腸亭日記巻二拾六
S.17. 9.10	ジャム, フランシス「散文集落葉 Feuilles dans le vent」	23 ; 288	〃
S.17. 9. 2	ノアイユ夫人「詩集その日 L'Ombre des Jours」	23 : 287	〃
S.17.10.16	平賀源内「狐や狐」 ⁵⁵⁾	23 : 293	〃
S.17.10.29	ファゲエ「十九世紀仏蘭文豪評論」	23 : 294	〃
S.17.10.19	Porche, François「Poètes français depuis Verlaine 1929 N.R.C」 ⁵⁶⁾ <small>(ママ)</small>	23 : 293	〃
S.17.11.13	ミシュレー「人道」	23 : 296	〃
S.17.11. 9	Farrère, Claude「L'homme qui assassina (人を殺せし人)」	23 : 296	〃
S.17.12.16	池田大伍「大伍戯曲選集」 ⁵⁷⁾	23 : 301	〃
S.17.12.31	大田南畝の長崎よりの尺牘	23 : 304	〃
S.17.12.23	小堀杏奴「回想」	23 : 302	〃
S.17.12.15	「沼間先生之伝」 ⁵⁸⁾	23 : 301	〃
S.17.12.10	津坂東陽「絶句類選評本」	23 : 300	〃
S.17.12.29	野崎左文「私ノ見タ明治の文壇」	23 : 303	〃
S.17.12. 8	福地桜痴「桜痴放言」	23 : 300	〃
S.17.12.29	福地桜痴「朝鮮宮中物語張嬪」	23 : 303	〃
S.17.12. 6	福地桜痴「練絹新三郎」	23 : 300	〃
S.17.12.24	森於菟「鷗外の母」	23 : 302	〃
S.17.12. 1	メリメエ「西班牙記事」 ⁵⁹⁾	23 : 299	〃
S.18. 1. 5	大田南畝「南畝尺牘集」	23 : 313	断腸亭日記第二十七巻
S.18. 1. 2	滝沢馬琴「羈旅漫録」	23 : 310	〃
S.18. 1.12	津坂東陽「絶句類選」	23 : 314	〃
S.18. 1. 5	「馬蘭亭狂歌寄書」	23 : 312	〃
S.18. 1.27	「三田文学」 ⁶⁰⁾	23 : 317	〃
S.18. 1. 3	フロオベル「十一月 Novembre」	23 : 311	〃
S.18. 1.31	フローベルの旅行記	23 : 318	〃
S.18. 1. 7	フローベル「Oeuvres de Jeunesse Inédites」(Louis Conard Paris 1910)	23 : 313	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S. 18. 1. 23	メーボン「今日の日本」	23 : 316	断腸亭日記第二十七卷
S. 18. 2. 24	相機抱一「抱一句集」	23 : 324	〃
S. 18. 2. 不	大島隆一「柳北談叢」	26 : 492	序跋其他：大島隆一著柳北談叢序
S. 18. 2. 15	「東京市史稿」市街篇第卅	23 : 323	断腸亭日記第二十七卷
S. 18. 2. 7	花笠文京編「白猿狂句集」	23 : 319	〃
S. 18. 2. 15	「府内沿革圖書卷十五」	23 : 322	〃
S. 18. 3. 3	大田南畝「蜀人序文集」 ⁶¹⁾	23 : 326	〃
S. 18. 3. 6	仮名書魯文「山蘭氏倭文集」 <small>グランド</small>	23 : 329	〃
S. 18. 3. 14	野崎左文「私の見た明治の文壇」	23 : 331	〃
S. 18. 3. 4	「花鏡」	23 : 329	〃
S. 18. 3. 27	福地桜癡「鳥居甲斐」 ⁶²⁾	23 : 333	〃
S. 18. 3. 8	「文芸倶楽部」 ⁶³⁾	23 : 330	〃
S. 18. 3. 29	コレット「障害物」	23 : 335	〃
S. 18. 3. 19	モーパッサン「モーパッサン短編集」 ⁶⁴⁾	23 : 332	〃
S. 18. 4. 24	「池上晴心君行実」	23 : 341	〃
S. 18. 4. 24	岡直養「闇斎先生易筮計状」	23 : 341	〃
S. 18. 4. 24	鹽田剛斎	23 : 341	〃
S. 18. 4. 25	滋野貞主「秘府略」	23 : 342	〃
S. 18. 4. 25	谷崎潤一郎「細雪」 ⁶⁵⁾	23 : 342	〃
S. 18. 4. 7	「三田文学第一号」 ⁶⁶⁾	23 : 337	〃
S. 18. 4. 24	依田学海「学海遺稿文目」	23 : 341	〃
S. 18. 4. 24	「禮記正義」 ⁶⁷⁾	23 : 342	〃
S. 18. 4. 9	コレット「漂泊の女」 ⁶⁸⁾ <small>ヴガハント</small>	23 : 338	〃
S. 18. 5. 5	Carco 「L'Homme traqué (殺人犯人)」 ⁶⁹⁾	23 : 345	〃
S. 18. 5. 31	Coulon, Marcel 「Anatomie littéraire」 1921	23 : 350	〃
S. 18. 5. 8	Larrac, Jean 「Hitoire de la littérature féminine en France Editions Kra.」 Paris 1929	23 : 345	〃
S. 18. 6. 不	相機抱一「抱一句集」	26 : 493	序跋其他：屠龍の抜跋
S. 18. 6. 16	樋口一葉「たけくらべ」	25 : 360	書簡集
S. 18. 6. 21	四方赤良「十才子名月詩集」	23 : 358	断腸亭日記第二十七卷
S. 18. 6. 20	フホガッツアロ「マロンブラ」	23 : 358	〃
S. 18. 7. 4	井上哲次郎「日本陽明学派の哲学学」	23 : 360	〃
S. 18. 7. 30	谷崎潤一郎「初音きのふけふ」 ⁷⁰⁾	23 : 369	〃
S. 18. 7. 18	アントンチュコウ「仏訳アントンチュコウ全集」(Oeuvres complètes d'Anton Tchekhov Traduites		

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
	du Russe par Denis Roche Paris- -is 1926) ^{71) 72)}	23 : 345~6	断腸亭日記第二十七巻
S.18. 7.12	デュアメル「夜半の懺悔」「里昂街の 秘密結社」	23 : 364	〃
S.18. 7.13	ドーデ「アルプス山のタアタラン」	23 : 364	〃
S.18. 7. 7	Arnaud, Etienne et Boisyyvon 「Le Cinéma pour tours」 Paris 1922	23 : 361	〃
S.18. 8.17	木村富子「浅草富士」	23 : 373	〃
S.18. 8.不	木村富子「浅草富士」	26 : 494	序跋其他：木村富子著浅草富士 序
S.18. 8.23	「梨齋集」廿四巻	23 : 374	断腸亭日記第二十七巻
S.18. 8. 1	谷崎潤一郎「初むかし」	29 : 68	拾遺：談話：書簡
S.18. 8.25	ヂッド「パリュード」	23 : 374	断腸亭日記第二十七巻
S.18. 9.24	依田学海「譚海」	23 : 383	〃
S.18. 9. 6	アポリネール「詩集アルコール」	23 : 377	〃
S.18. 9.20	「L'Alsace Française」 ⁷³⁾	23 : 382	〃
S.18.10. 5	大島隆一「柳北談叢」	23 : 388	〃
S.18.10. 7	小堀杏双「橡の蔭」	23 : 390	〃
S.18.10.12	「聖書」 ⁷⁴⁾	23 : 391	〃
S.18.10.30	中江兆民編「仏和辞典」	23 : 400	〃
S.18.11.23	「不易」 ⁷⁵⁾	23 : 409	〃
S.18.11.27	サマン「詩集王女の庭」	23 : 410	〃
S.18.11.25	「ドビュッシイの評伝」	23 : 410	〃
S.18.11. 4	プルースト 「Les Plaisirs et les Jours」	23 : 402	〃
S.18.11.14	Manuel, Roland 「Maurice Ravel et Son Oeuvre.」1914 Durand et Fils Paris.	23 : 405	〃
S.18.11. 6	Rome, Lettres à un ami par M. l'Abbé Rolland 1985 Tours Fra nce.	23 : 403	〃
S.18.11. 9	Tourguénev 「Noeveau Poèmes en Prose. Traduction de Charles Salomon.」	23 : 404	〃
S.18.11.28	Vallas, Léon 「Claude Debussy et son temps Paris 1932」	23 : 410	〃
S.18.12.18	金乗旭「詩集馬」	23 : 415	〃
S.18.12.不	〃 「 〃 」	26 : 496	序跋其他：金乗旭詩集馬の序
S.18.12.24	Prod' Homme, J. G. 「L'Opera (1669 -1925) Ed. Delagrave. Paris.」	23 : 417	断腸亭日記第二十七巻

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.19. 1.30	「閩語情伝」	23:430	断腸亭日録巻式拾八
S.19. 1.不	細木香似 ⁷⁶⁾	17:197	冬の蠅:枯葉の記
S.18. 1.30	志道軒「元無草」	23:430	断腸亭日録巻式拾八
S.19. 1.30	「大東閩語補」	23:430	〃
S.19. 1.不	森鷗外「雁」	17:202	冬の蠅:雪の日
S.19. 1.29	フローベル「マダムボワリー」	23:429	断腸亭日録巻式拾八
S.19. 1.12	マルグリットの短編小説集	23:426	〃
S.19. 2.不	為永春水「辰巳園」「湊の花」	17:186	冬の蠅:雪の日
S.19. 2.不	ヴェルレーヌ ⁷⁷⁾	17:195	〃 : 〃
S.19. 2.28	カーライル ⁷⁸⁾	23:433	断腸亭日録巻式拾八
S.19. 2.28	ゾラ ⁷⁸⁾	23:433	〃
S.19. 2.28	フローベル「フローベル全集皮綴」	23:433	〃
S.19. 3.10	左団次舊蔵「狂歌短冊帖」	23:435	〃
S.19. 3.12	孟子	23:435	〃
S.19. 4.24	柏木如亭「詩本草」 ⁷⁹⁾	23:445	〃
S.19. 4.13	NRF の古雑誌	23:443	〃
S.19. 6.29	ラマルチンの詩巻	23:454	〃
S.19. 7. 1	上田敏「(小説)渦巻」	23:463	〃
S.19. 7.17	大田南畝「南畝尺牘」	25:367	書簡集
S.19. 7. 5	オルテール「Zadig」	23:464	断腸亭日録式拾八
S.19. 8.29	小金井喜美子「森鷗外の系族」	23:481	〃
S.19. 8.18	森銑三「古書新説」	23:477	〃
S.19. 8. 8	ゾラ「プラッサンの勝利」	23:476	〃
S.19. 8.25	ドストエスキイの仏訳全集	23:480	断腸亭日録第二十八巻続
S.19. 8.25	ランインの全集	23:480	〃
S.19. 8.19	Arland, Marcel 「Le Jardin des Pivoines recueil de Nouvelles Japonaises, Traduites par Serge Elisséev」(Au Sans Pareil) ⁸⁰⁾	23:478	〃
S.19. 9. 4	ゴーチエー「木乃伊物語」	23:481	〃
S.19. 9.17	シャル、ゲラン「(詩集)灰をまく人」	23:485	〃
S.19. 9. 9	ダヌンチオ「死の勝利」	23:483	〃
S.19. 9.25	モラン、ポール「紐育」	23:489	〃
S.19.10.16	林鶴梁の日記	23:495	〃
S.19.10.20	バルビュス、アンリ「航空記 Elévation」	23:496	〃
S.19.11. 1	バルビユツス「作火」	23:499	〃
S.19.11.24	ロチ、ピエール「英領以外の印度 L'Inde sans les Anglais」 ⁸¹⁾	23:503	〃
S.19.12.24	森鷗外「審美論」	23:509	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.19.12.26	森鷗外「審美綱領」	23:509	断腸亭日記第二十八巻続
S.19.12.22	ドストエフスキー, フォードル・ミハイロヴィチ「ドストエフスキ全集」 ^[82]	25:375	書簡集
S.19.12.22	バルザック, オル・ド「バルザック全集」	25:375	〃
S.19.12.1	フェヌロン, フランソワ・ド「テレマック」	23:504	断腸亭日記第二十八巻続
S.19.12.22	フランス, アナトール「アナトールフランス美装全集」	25:375	書簡集
S.19.12.22	レニエー, アンリ・ド「 ^{リール} 書冊」 ^[83]	25:375	〃
S.20.1.18	Munteano「ルーマニア文学史」	24:7	断腸亭日乗第二十九巻
S.20.1.13	「Revue des Deux mondes」	24:6	〃
S.20.1.16	Wyzewa, T. de「西洋絵画畧史」 ^[84]		
	一九九一年板	24:7	〃
S.20.2.10	「ドウモンド古雑誌」	24:11	〃
S.20.2.15	ベルトラン, ルイ「ドンジャンの敵」 ^[85]	24:13	〃
S.20.2.15	Bertrand, Louis「Les Minutes Heureuses」	24:12~13	〃
S.20.2.15	Bertrand, Louis「文壇回想記」	29:382	続参考篇:手帖积文
S.20.2.10	「R. de Monde」誌	29:381	〃 : 〃
S.20.3.23	家田虎「老子道德経」 ^[87]	25:380	書簡集
S.20.3.3	木村鏡花子「木挽町沿革志」	25:379	〃
S.20.3.1	児島獻吉郎「支那散人考」	24:16	断腸亭日乗第二十九巻
S.20.3.23	ミュッセ, アルフレッド・ド ^[88] 「詩集」	25:380	書簡集
S.20.4.24	フローベル, ギュスターヴ「Un Cœur simple (田舎の下女)」	24:28	断腸亭日乗第二十九巻
S.20.5.22	泉鏡花 ^[89]	24:36	〃
S.20.5.22	「大阪毎日新聞」 ^[89]	24:36	〃
S.20.5.22	尾崎紅葉「金色夜叉」 ^[90]	24:36	〃
S.20.5.22	「京華新報」 ^[91]	24:36	〃
S.20.5.22	條野採菊 ^[92]	24:36	〃
S.20.5.22	「世事画報」 ^[93]	24:35	〃
S.20.5.22	「太平新聞」 ^[94]	24:36	〃
S.20.5.22	塚原澁柿園の歴史小説 ^[95]	24:36	〃
S.20.5.22	「東京日々新聞」 ^[95]	24:36	〃
S.20.5.22	広津柳浪 ^[99]	24:36	〃
S.20.5.22	福地桜痴「乱れやき」 ^[91]	24:36	〃
S.20.5.22	「報知新聞」 ^[96]	24:36	〃
S.20.5.22	「都新聞」の「五才釘寅吉」	24:36	〃
S.20.5.22	村井弦斎「日出鳩」 ^[96]	24:36	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.20. 5.22	村上浪六「黒田健次」 ⁹⁴⁾	24 : 36	断腸亭日乗第二十九卷
S.20. 5.22	「やまと新聞」 ⁹²⁾	24 : 36	〃
S.20. 5.22	「読売新聞」 ⁹⁰⁾	24 : 36	〃
S.20. 5.23	ハウトマン「戯曲寂しき人々」	29 : 398	続参与篇：手釈積文
S.20. 5.23	ハウプトマン「戯曲寂しき人々」	24 : 36	断腸亭日乗第二十九卷
S.20. 5.10	マルタン「仏蘭西史」八卷	24 : 34	〃
S.20. 5. 8	モリヤック, フラソワの短編三種	24 : 31	〃
S.20. 5. 8	モリヤック, フランソワの短編三種	29 : 397	続参考篇：手釈積文
S.20. 6.16	菊地三溪「虞初新誌」	24 : 45	断腸亭日乗第二十九卷
S.20. 6.16	ウエルレーヌ, ポールの選集	24 : 44	〃
S.20. 6.21	トルストイ「アンナカレニン」 ⁹⁷⁾	24 : 48	〃
S.20. 6. 3	マラルメ, スラファーマヌ「牧神の午後」	24 : 41	〃
S.20. 7.15	成島柳北「航薇日記」	25 : 389	書簡集
S.20. 7.31	深作安文「思想と人格」	24 : 59	断腸亭日乗第二十九卷
S.20. 8. 6	ゾラ, エミール「ベートイユメーン」	24 : 61	〃
S.20. 8. 6	コイスマン「寺院」	24 : 61	〃
S.20. 9.24	一禅「親鸞聖人御一代記図絵」	24 : 80	〃
S.20. 9.11	「大岡政談」	24 : 75	〃
S.20. 9.27	「お伽婢子」	24 : 82	〃
S.20. 9.22	「帝国文庫本高僧実伝」	24 : 80	〃
S.20. 9.17	広津柳浪「浅瀬の波」 ⁹⁸⁾	24 : 77	〃
S.20.10. 5	各務支考「笈日記」	24 : 88	〃
S.20.10. 7	「為永春水論」	25 : 405	書簡集
S.20.10. 2	杜甫「岩波本社甫詩集」	24 : 86	断腸亭日乗第二十九卷
S.20.10. 7	依田学海「譚海」	25 : 405	書簡集
S.20.10.26	スタンダル「Armance」	24 : 94	断腸亭日乗第二十九卷
S.20.11.20	「雑誌人間」 ⁹⁹⁾	24 : 107	〃
S.20.11.18	ロチ, ピエール「氷嶋の漁人」	24 : 107	〃
S.20.11. 3	Chardonne, Jacques「Eva」	24 : 102	〃
S.20.11.11	「雑誌 Life」	24 : 104	〃
S.20.12.26	大田南畝「杏園詩集」	24 : 113	〃
S.20.12.29	「雑誌太平」 ¹⁰⁰⁾	24 : 114	〃
S.20.12.15	「雑誌展望」 ¹⁰¹⁾	24 : 112	〃
S.20.12.26	杜牧選「樊川詩集」	24 : 113	〃
S.20.12.不	森鷗外「審美綱領」	17 : 211	飾葛土産其他：亜米利加の思出
S.20.12.不	シャトウブリアン「ルネエ」 ¹⁰²⁾	17 : 208	〃 : 〃
S.20.12.不	ツルゲネフ「獵人日記」 ¹⁰³⁾	17 : 209	〃 : 〃
S.20.12.不	バザン, ルネ「優美なる仏蘭西」 ¹⁰⁴⁾	17 : 210	〃 : 〃
S.20.12.18	ユーゴー, ヴィクトル「黙想」	24 : 113	断腸亭日乗第二十九卷続
S.20.12. 7	ラマルチン「冥想」	24 : 110	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
S.20.12.31	Hearn, Lafcadio 「Stories from Pierre Loti」	24:114	断腸亭日乗第二十九巻続
S.21.1.27	栗本鋤雲「兜庵遺稿」	24:121	断腸亭日乗巻第三十
S.20.1.27	林鶴梁「鶴梁文鈔」	24:121	〃
S.21.1.不	オルコック「大君の首都に於ける三年」	17:228	飾葛土産其他:墓畔の海
S.21.1.24	コクトオ「戯曲 Les Parents Terribles」 ¹⁰⁵⁾	24:121	断腸亭日乗巻第三十
S.21.1.31	ミュッセ「ミュッセ詩集」 ^[ママ]	24:121	〃
S.21.1.不	メーボン, アルペール「今日の日本」	15:259	鷗外先生:仏蘭西人の見たる鷗外先生
S.21.2.25	生田葵山「和蘭陀皿」 ¹⁰⁶⁾ 「鶏の腸」 ¹⁰⁶⁾	24:125	断腸亭日乗巻第三十
*107) S.21.2.不	西行 ¹⁰⁸⁾	17:218	飾葛土産其他:冬日の窓
S.21.2.20	橋南溪「東遊記」	24:123	断腸亭日乗巻第三十
S.21.2.20	「藤樹先生伝」	24:123	〃
*107) S.21.2.不	芭蕉 ¹⁰⁸⁾	17:218	飾葛土産其他:冬日の窓
*107) S.21.2.不	モーパッサン, ギイ・ド ¹⁰⁹⁾	17:220	〃 : 〃

注

- 1) アンドレ・ジッドの『狭き門』への荷風の関心, 『天の夕顔』と『狭き門』との関係を併せ考えるべきであろう。
- 2) アルフレッド・ド・ミュッセへの荷風の関心は生涯を通じて高い。ミュッセは荷風の持つロマンティズムの本質的要素を代表する作家であろう。
- 3) ミュルゼの『ヴィ・ド・ボエーム』すなわち『ボエーム生活』の荷風の訳語『貧書生』は, 作品の本質をよくあらわしている。
- 4) ピエール・ロティへの関心はこのころまた高まっている。
- 5) ヴェルレーヌのこの論文は, 荷風の批評眼のひとつの拠り所である。
- 6) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 7) 〃
- 8) 仏蘭西訳
- 9) イリアード其他希臘の詩篇を仏蘭西に紹介せし学者なり。
- 10) この〔ママ〕は岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 11) “駿河台日仏会館内ジョルジュ・ボノオという仏蘭西人, 仏日両国文学博士の肩書あり; 日本文学史を編述中の由”
- 12) 外国人の日本文学史観, 日本文学史に注目していた荷風は, この意味でもわが国における先駆者的存在である。
- 13) 多年の労作であるこの著及びこの著に類する書誌の本に荷風はつとに関心を抱いた。時代の真の先駆者である。
- 14) 第1号, 昭和2年4月発行
- 15) こうしたルポルタージュを荷風は好んで読む。
- 16) ルソーの到達した晩年の心境を読み取りたい意欲; その名文を味わいたい意欲が合体している。

- 17) 柳北先生襟録集, 明治18年4月改進出版社
- 18) ancien envoyé extraordinaire et ministre plénipotentiaire de la Cofédération, Suisse. 1870.
- 19) “Mimi Pinson の一篇何とはなく春水の人情本をよむが如く心地す。”
- 20) 昭和6年出版
- 21) 同年10月30日には Provincial とあり
- 22) 明治26年12月刊
- 23) 邦文, 小冊子
- 24) 仏蘭西文, 小冊子
- 25) 『お菊さん』のいわば姉妹編としてこの作品を意識した荷風であった。
- 26) “氷島漁夫の解説をよむに, ピエールロチの小説お菊さんの出版は1887年明治20年, 日本の秋はその翌々年1889年明治22年なり”
- 27) 明治26年, 金港堂の版なり
- 28) “「——」をよむに日本のことを筆にしたる小説家フルツシャという人の著述を挙げたり。”
- 29) “フルツシャはピエールロチに私淑するところあり(中略)。日本の生活を模写し好評を博したりと云ふ。”
- 30) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 31) “井上啞々子會て先生(岡不崩)の略伝をしるして雑誌花月に掲げしことあり。”
- 32) 安永年間の随筆。
- 33) “写本。上毛倉賀野あたりの土妓の評判記・執筆当時文化十年ころ。”
- 34) “仏蘭西近世語訳本”
- 35) “8, 9, 10月号に毅堂枕山の事及拙著下谷叢話記事の脱漏につきて言ふところ尠からず。”
- 36) “「紅樓夢」篇中の長詩秋窓風雨夕を和訳す”
- 37) 『溼東綺譚』への同作品の影響は大きい。『溼東綺譚』は, 荷風の『紅樓夢』現解の報告書とも言えよう。
- 38) “仏蘭西訳本をよむ”
- 39) “ラテールの翻訳なり”
- 40) avec préface de P. Bourget. Hachette, 1910.
- 41) “「寂しき人の日記」の戦争記事を読む”
- 42) Hachette, 1932
- 43) “大正14年11月発行。四方梅彦の伝(大槻如雷談)あり。”
- 44) “幸徳秋水の序あり。”
- 45) Mercure, Paris, 1920.
- 46) “馬琴の作には漢文の基礎が有る。”
- 47) 春水の主要な作品を, この時点で読み返している点に注目したい。
- 48) 荷風の師鷗外の作品の中でも最も好んだものであった。
- 49) “種彦の文には和学の影響がある。”
- 50) 瑞西連邦の公使。文久の頃江戸に駐在した折に書いたもの
- 51) “林守篤の編述”
- 52) “書物展望御寄稿の御祖先伝記”
- 53) フランス文学がイギリス文学をはるかに凌ぐ要素である, 方法論の探求を試みる作品として, この『賈金つくり』に荷風は関心を持っている。
- 54) 岩波版全集本
- 55) “安永6年と題する写本”
- 56) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 57) 新らしい歌舞伎の舞台にのせる作品として, その台詞の妙に荷風は魅かれている。
- 58) “明治23年8月21日毎日新聞附録”
- 59) 言語学者としてのプロスペル・メリメが見るコルシカ, スペインなどに荷風は魅かれている。

- 60) “大正2年2月の三田文学に海月の歌と題する余が新体詩あり”
- 61) “文行堂と竹清子との編輯せしもの也”
- 62) 明治卅一年小説文庫
- 63) “明治三十四年余が筆にせし琴古流の尺八と云ふものありたればなり”
- 64) “千九百五年米國華府の書店プレントノにて一冊一弗半にて購ひ仏蘭西に渡りし後里昂オペラ座前の書肆にて一冊フランクにて皮綴にさせしもの”
- 65) 中央公論連載
- 66) 明治四十三年五月発行
- 67) 身延山所蔵北宋刊本
- 68) 昭和三十年代に紹介と翻訳が出たこの作品中の風俗に荷風は関心をもっている。
- 69) パリ下町のみを生涯描き続けたカルコの持つ鬱悶気を荷風は好んでいる。
- 70) “谷崎氏其近著初昔きのふけふを贈らる。”
- 71) I. Salle 6. II. Les Moujiks III. Une banale histoire IV. Ma Femme V. Trois ans VI. Ma vie (Récit d'un provincial) VII. Le Moins noir VIII. Le Duel IX. Le Jour de fête. X. La Steppe. XI. Récit d'un Inconnue XII. Voisin XIII. Un Cas de pratique médicale. XIV. XV. XVI. Théâtre XVII. XVIII. XIX. Corre spondance XX. Carnets de notes, Documents biographiques et critiques, Index.
- 72) チェーホフの仏訳はその内容から考えて、仏訳する意義のもつともある作家であり、荷風はそれをよく識っている。
- 73) “1921年週刊雑誌合本二冊”
- 74) “仏蘭西訳”
- 75) “靱山氏の俳諧雑誌”
- 76) “おのれにも飽きた姿や破芭蕉”
- 77) “巷に雨のふるやうにわが心にも雨のふる”
- 78) “仏蘭西訳本”
- 79) 柏木如亭の通人としての生涯、また流離の生涯を荷風は好んだ。
- 80) “NRF 1927年8月号の切抜”
- 81) インドへのロティの接近の方法と荷風のそれとは酷似している。
- 82) “仏訳”
- 83) “アンリィ・ド・レニエー第1詩集の中の1編”
- 84) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 85) “”
- 86) “雑誌^{ルヴェードバリ}巴里評論掲載”
- 87) “仏訳”
- 88) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 89) “大阪毎日新聞 広津柳浪泉鏡花の小説好評”
- 90) “読売新聞 紅葉山人の金色夜叉”
- 91) “京華新報 桜痴居士の乱れやき”
- 92) “やまと新聞 條野採菊の小説”
- 93) “諸新聞紙の昨今と題せし記事中掲載小説に就いての批評あり”
- 94) “太平新聞 村上浪六の黒田健次”
- 95) “東京日々新聞塚原澁柿園の歴史小説”
- 96) “報知新聞電強盗村井弦斎の日出鳴”
- 97) “仏蘭西訳”
- 98) “改造社一円本柳浪先生の部”
- 99) “鎌倉文庫”

- 100) “時事通信社”
- 101) “筑摩書房”
- 102) “ルネエを読んで北米南部の深林に異様な憧憬の心を持ち”
- 103) “仏訳”
- 104) “真正な愛国の文学”
- 105) 岩波書店編集部によりつけられたもの。
- 106) “明治38, 9年中央公論”
- 107) 昭和20年12月稿
- 108) “わたくしは西行と芭蕉の事を思ひ浮かべる。……さびしき二人の作品は座右の書物から興會を得たものではなく、直接道途の観察と羈旅の哀愁から得たものである。”
- 109) “モーパッサンにも寂寞を追求して止む能はざる病的の性癖があった。”